

令和7年度研修 評価

研修名	在宅看護（入退院支援）研修会 全日程				
領 域	訪問看護	会場	新潟県看護 研修センター	受講料	会 員：8,800 円 非会員：26,400 円
対 象	募集数 20 名 応募数 10 名 参加数 10 名 会員数 8 名 非会員数 2 名 修了者 9 名				
日 時	令和7年6月12日（木）～11月15日（土） 9：30～15：30 または 16：30				
ねらい（目標）	1. 地域連携に必要な知識と在宅支援システムを学び、実践に活かすことができる 2. 療養者およびその家族が安心して入退院できる支援方法を学び実践に活かすことができる				
講 師	1 丸山径世 新潟市居宅介護支援事業者連絡協議会 会長 1 白倉透規 医療法人立川メディカルセンター立川総合病院 地域医療介護連携センター 入退院支援看護主任 慢性心不全看護認定看護師 2 井上智代 新潟大学大学院 保険学研究科 准教授 2 中野美佳 訪問看護ステーションふくふく 管理者 緩和ケア認定看護師 3 中野美佳 訪問看護ステーションふくふく 管理者 緩和ケア認定看護師 3 阿部行宏 山の下クリニック 院長 4 宇都宮宏子 在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス				
内容・方法	○講義 1日5または6時間 講義、グループワーク、演習 ○施設実習 調整した施設において、オリエンテーション、同行訪問、まとめ				
結 果	○受講割合 50.0% 【達成・ 未達成 】 ○アンケート結果 ・理解度 100% 【達成・ 未達成 】 ・自己課題の達成度または研修目標の修得度 100% 【 達成 ・未達成】 ○受講者の意見 ・「共創」という視点での退院支援について理解することができた。 ・利用者のケアを考える上で大切なことを学んだ。 ・在宅での看取り、緩和ケアについて事例を通し実際の関わりを知ることができた。 ・病院と在宅、地域が繋がっており、その中での訪問看護師の役割が分かった。 ・実際の事例を含めた話もあり、講義の内容もわかりやすかった。 ・講義とグループワークで構成されており、介護支援員の役割や事例と共に、働く場の違う看護職との交流ができた。 ・入院時のスクリーニングや意思決定支援と倫理について具体的な事例を共に講義いただいた。 ・憲法の条文や聞きなれない言葉が出てきて、戸惑った。				
評 価・総 括	○目標達成の評価：【 研修会の目標は達成した ・達成しなかった】 ・アンケート結果より、各講義に対する満足度・達成度・習得度は高く、看護師				

	として地域包括、入退院支援、訪問看護等、地域医療のあり方を学び、自身の課題や役割を認識することができ、目標は達成できた。 ○総括 ・全日程を通して学ぶことで、退院支援やACPに対して、理解を深め、今後の実践につなげることができるきっかけになっている。また看護師としての様々な部門での役割を理解することで自分自身の働き方を考えることができる研修である。
課 題	○講義中にグループワークがあり、様々な立場で働いている看護師で意見交換の場であるが、訪問看護師の参加数が少く、訪問看護の役割についての意見交換が少なくなっている。 ○入退院支援は、病院・施設・在宅をつなぐ重要な支援であり、今後も在宅医療をつなげる立場として、必要な研修になるが、参加割合が50%と増加しない。 ○訪問看護師以外にも、在宅支援として関わる看護師は多いので、外来看護師、施設看護師にも積極的に参加してもらえるような取り組みが必要である。
担当者	訪問看護推進委員